

機関番号：37104

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009 年度～2010 年度

課題番号：21820076

研究課題名（和文） 貝原益軒の著作・思想形成に関する基礎的研究の構築

研究課題名（英文）An Analysis of the Ideas and Literary Works of Kaibara Ekiken

研究代表者

大庭 卓也 (OHBA TAKUYA)

久留米大学・文学部・講師

研究者番号：20511661

研究成果の概要（和文）：

江戸時代前・中期を代表する儒学者貝原益軒（1630 - 1714）の著作と思想の形成過程を明らかにするために、貝原益軒の高弟で彼の著作執筆の手助けをした、竹田春庵（1661 - 1754）旧蔵の資料群（福岡県立図書館・九州大学附属図書館所蔵「竹田文庫」）のなかに見られる、貝原益軒が竹田春庵に送った書簡 1,166 通の全解読を目指し、本研究期間中には、九州大学附属図書館所蔵分 542 通の解読完了を予定していた。その結果、一応すべての書簡の解読原稿を作りおえたものの、やはり難読箇所が多く残ったため、このうち、200 通に限定して、難読箇所に精査を加え、若干の頭注を付して『貝原益軒書簡集成（稿）』を作成した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this paper is to explore and clarify the literary ideas and writing processes of Confucianist Kaibara Ekiken (1630 - 1714), who wrote during the Edo Era. In so doing, it considers the important contributions of his pupil, Takeda Shun-an (1661 - 1754). Focus is placed on deciphering a selection from among a vast body of personal correspondence between the two brothers. Of 1,166 examples known to be in existence, 542 letters are held at the Takeda Library of the Kyushu University Attached Library, Fukuoka Prefecture, Japan. The present paper concentrates on deciphering the meaning and significance of 200 letters in making observations as to the content and underlying style of Kaibara Ekiken's work.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,080,000	324,000	1,404,000
2010 年度	970,000	291,000	1,261,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,050,000	615,000	2,665,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：貝原益軒、竹田春庵、朱子学、日本儒学、書誌学、古文書学、日本近世文学、日本思想史

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

これまでの貝原益軒の思想の研究は、完成された本文注釈を中心に進められており、その著作や思想が成立するまでの経緯はほんの部分的にしか解明されていないのが現状であった。益軒の著作の多くは、予備調査、稿本の改訂・清書、出版書肆（版元となる出版業者）との交渉、試し刷りでの校正など、万般にわたって、彼の高弟である竹田春庵との連携によって行われていたことが、福岡県立図書館・九州大学附属図書館「竹田文庫」に残る、益軒の春庵宛て書簡群 1,166 通から知られるのだが、これまで、井上忠氏編『九州史料叢書 益軒資料』全 6 巻（昭和 30～35 九州史料刊行会）川添昭二氏・古文書を読む会編『新訂黒田家譜』全 7 巻（昭和 59 文献出版）附録巻において、県立図書館分の益軒書簡 230 通、九州大学分の益軒書簡 124 通、合計 345 通の書簡が解読・分析されているにとどまり、全体の総数 1,166 通に比べると、訳 7 割もの書簡が未検討のままに放置されているというのが、学界の現状であった。しかも、井上氏『益軒資料』の解読には、少なからず誤読・事実誤認があり、再検討の必要性が認められる。

また、県立図書館「竹田文庫」には、春庵が所持していた益軒の著作 61 点が残されている。これらは、益軒の手沢本やその写し、あるいは初版本であり、益軒の著作を考えるうえでの基礎的材料とすべきであるが、県立図書館の作成による仮目録『竹田文庫目録（稿）』（昭和 47 福岡県立図書館）が備わるのみで、これまで系統立てたかたちで書誌学・文献学的な検討が加えられた形跡がない。

本研究に着手しなければならないと考えた背景には、以上のような益軒研究における問題点があったからであった。

2. 研究の目的

こうした益軒研究における問題点は、これまで益軒の思想や「竹田文庫」の研究を、哲学や歴史学の研究者に委ね過ぎてきたことに原因があるように思う。江戸時代の学者文人たちの書簡の読解や、板本（刊行された本）の諸版研究は、申請者のような国文学（特に日本近世文学）専攻者が得意とし、かつ取り組まなければならない課題と考える。また、申請者はこれまで、同時代の学壇の諸状況と有機的に関連させて儒学者たちの思想や文学的活動を検討するという視点から研究を進めてきたが、こうした研究の視点も、従来の哲学・歴史学における研究には著しく欠如していたといえる。

そこで、如上のような現状を少しでも前進させるべく、本研究では以下の 2 点を課題の柱として設定し、学芸史・文学史研究の立場

から先行研究の不備を補うことに挑みたいと考えたのである。

- (1) 福岡県立図書館「竹田文庫」を中心とする益軒著作の書誌学的諸版研究。
- (2) 九州大学附属図書館「竹田文庫」に残る益軒書簡のうち、未読書簡 418 通の解読。

3. 研究の方法

以上のような研究目的を達成するための研究方法を大まかにいえば、益軒著作類・益軒書簡の画像および書誌データの収集・整理と、その分析が基礎作業となる。以下に、年度別実施した研究方法を具体的に述べる。

(1) 平成 21 年度

益軒著作・書簡のデータ収集を基調として行い、次年度の研究を円滑に進めるための環境整備に全力を尽くした。九州大学附属図書館「竹田文庫」の益軒書簡にかんしては、さる平成 14 年、申請者のそれまでのほたらきかけにより、同図書館がすべての書簡 542 通の画像撮影、CD-R 焼き付けを完了させており、研究環境は飛躍的に整備されているといえる。従って、本年度のデータ収集の対象となるのは、福岡県立図書館「竹田文庫」の益軒書簡 607 通と益軒著作 25 点である。

福岡県立図書館「竹田文庫」の全資料にかんしては、既にマイクロフィルム化が完了されているので、まずは、そのうち益軒書簡 607 通と益軒著作 25 点の複写作業を、九州大学大学院生の森哲子、河内重雄、藤崎祐二、佐藤眸の諸君の協力のもとに精力的にすすめてもらった。これらを、すべて製本して申請者の研究室に備え、次年度を中心に実施する。九州大学附属図書館「竹田文庫」の益軒書簡解読作業の参考資料として、いつでも参照できる環境をととのえた。

複写作業を進める一方で、申請者は、福岡県立図書館の益軒著作 25 点にかんして、現物の書誌調査を実施し、データ化をすすめた。また、諸版の書誌データを収集するため、遠方では国立国会図書館、国立公文書館、国文学研究資料館、近場では九州大学附属図書館などの書機関で調査を行った。

また、益軒書簡の解読および益軒著作の諸版研究には、益軒研究の先行論文の収集も必要であると考え、先述の九州大学大学院生の協力のもとに、主として九州大学附属図書館において、先行論文の複写作業をも実施してもらった。

さらに、九州大学附属図書館「竹田文庫」の益軒書簡の解読作業は、次年度に実施する予定であったが、解読すべき書簡の数が 418 通と非常に多いため、申請者は本年度のうちに可能なかぎり解読をすすめた。本研究の申

請時には、解読作業には、矢毛達之氏（中村学園大学非常勤講師）、生住昌大氏（九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程）、菱岡憲司氏（有明工業高専門学校助教）、吉田洋一氏（久留米大学講師）らの協力を得ながら進めるつもりであったが、細心の注意をはらうべき書簡の解読は、複数人数の共同作業は不向きと考え、あえて基本的には申請者ひとりで実施することにし、時折、難読箇所などある場合には、お名前をあげた諸氏に意見をいただく程度にとどめるよう、方針を変更した。

(2)平成 22 年度

前年度に収集した益軒書簡の複写データをもとに、九州大学附属図書館「竹田文庫」の未読益軒書簡 418 通の解読を申請者単独で進めた。その際、九州大学大学院生の協力のもとに手元に備えることができた、福岡県立図書館「竹田文庫」の益軒書簡の複写は、関連する事項も多く、大いに役立ったが、一方で九州大学附属図書館「竹田文庫」の益軒書簡も冊子体のかたちで複写して備える必要を痛感し、CD-R をプリントアウトして製本のうえ研究室に備えた。

解読した書簡は、すべてデータ化し集積してゆくようにしたが、益軒の文字は、晩年になるに従って解読が難解となり、作業は思いのほか困難であった。9 月半ば頃には、418 通のうち約 7 割の書簡の解読をおえたが、やはりなおデータには未読箇所が散見される状態であったので、益軒の著作刊行にかかわる書簡（福岡県立図書館・九州大学附属図書館「竹田文庫」は、「書籍」「風土記」「黒田家譜」「雑」の 4 つの分類ごとに卷子本に装丁されている）200 通に限定して、原資料に忠実なデータを作成するよう、方針を変更した。

また、福岡県立図書館「竹田文庫」の益軒著作データ収集は、前年度のうちに完了していたが、九州大学附属図書館にも、益軒著作が多数所蔵されるので、諸版研究の参考資料として、前年度にひきつづき、九州大学大学院生の森哲子、河内重雄、藤崎祐二、佐藤恵の諸君の協力のもとに、それらの複写作業をしてもらい製本したうえで、申請者の研究室に備えることとした。

4. 研究成果

以上のような研究方法のもとに、得られた成果は、申請時の予定していたものより少なくなってしまう反面、より正確を期したものとなった。そして以下のようなかたちで社会および学界に紹介することができた。

(1) 柳川市史歴史講座における講演「文芸圏における七絃琴の復興者たち」

本講座は、柳川古文書館柳川市史編さん係が、市民を対象に、柳川の歴史や文化を分かりやすく理解してもらうことを目的として、毎年開催しているものである。本年度は 9 月 18 日に柳川市立図書館において開催され、申請者は、柳川藩儒安東省庵の七絃琴（中国古代の楽器）にかんする研究の概要と、その学芸史的な位置づけを、分かりやすく説明した。まず儒学者が音楽の研究をおこなう意味から考察をくわえ、その際に、本研究で調査をすすめて明らかとなってきた、益軒著作の範囲が広範におよぶことを例証としてあげ、もって儒学的一端として中国古代の研究が進められていた点を強調して説明した。

受講者からは、現在の哲学と同義であると考えていた儒学が、あらゆる分野の研究を含み、音楽の研究まで視野にいれていたことに改めて驚いたという感想・質問が多数出され、本研究の成果を、社会に還元することができたといえよう。

(2) 『九州大学百年の宝物』（九州大学百年の宝物刊行委員会編、平成 23 年 3 月、丸善プラネット）における「竹田文庫」の項目執筆。

本書は、九州大学創立百周年事業の一環として、同附属図書館が所蔵する貴重資料の数々を、一般に分かりやすく紹介しようとするものであるが、このうち「竹田文庫」の執筆を申請者が依頼された。

原稿を書くにあたり、竹田春庵旧蔵の資料群「竹田文庫」が、九州大学附属図書館と福岡県立図書館に分置して保管される点、また両「竹田文庫」には、益軒の書簡が約 1 千通残されている点、さらに、それら書簡の読解が益軒の思想や著作成立の経緯をつぶさに解明する点など、本研究での成果を十分にとりこみながら平易に説明するよう努めた。

なお、同図書館が平成 23 年 5 月 10 日（火）から 16 日（月）までに開催した「九州大学百年の宝物：附属図書館貴重資料コレクション」展においても、貴重資料を代表する約 30 点のうちに「竹田文庫」がとりあげられ、申請者が本書に執筆した文章もパネルとして展示された。来場者数も多数あったと聞いており、これもまた本研究の成果の一端を社会に還元できたものといえる。

(3) 『貝原益軒書簡集成（稿）』の作成

本研究で実施した、九州大学附属図書館「竹田文庫」の益軒書簡のうち、益軒の著作刊行にかかわる書簡 200 通に限定して、原資料に可能なかぎり忠実なテキストをまとめたものである。

当初は、同図書館「竹田文庫」の益軒書簡

のすべて542通を、数分冊のかたちでまとめる予定であったが、厳密なテキストを作成するために、解読範囲を縮小したこと、前述のとおりである。

これまで日本近世における出版機構の研究は相応にすすめられているが、特に出版機構成立期にあたる近世前期の出版資料は非常に乏しい。その点、本テキスト集にまとめた書簡の数々は、こうした資料の不足を補うものと確信するのであり、その意味において学界への貢献は少なしとしないと考える。

ただ、のこる九州大学附属図書館の342通、また福岡県立図書館の642通の益軒書簡も継続して紹介してゆく必要があり、これら全資料の複写作業はおえているから、今後の課題として解読作業を実施してゆきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計1件)

・大庭卓也「文芸圈における七絃琴の復興者たち」(柳川市史歴史講座講演、2010.9.18 於柳川市立図書館)

[その他]

(1) 大庭卓也「竹田文庫」

(『九州大学百年の宝物』所収、査読無し、九州大学百年の宝物刊行委員会編、2011.3、丸善プラネット)

(2) 大庭卓也解読『貝原益軒書簡集(稿)』(査読無し、2011.3、城島印刷所)

6. 研究組織

(1)研究代表者

大庭 卓也(OHBA TAKUYA)

久留米大学・文学部・講師

研究者番号：20511661